

スポークニップル抜け事件

模造ニップルによる破損例

スポーク折損は段差乗り上げなど想定以上の大きなストレスを受けると発生します。

BMWの場合、1953年R25/3、1954年R51/3以降はフルハブ仕様でストレート・スポークを採用しているため首の伸びが無いのでスポーク緩みが無く強固なホイールとなっています。

材質不適、加工不良、サイズ違い、リムのスポーク角度の不適などがあると通常走行で発生することもあります。流通初期のステンレススポークのなかには加工が適切でなかったのかスポークの頭が抜ける例がありました。もちろん放置車両や経年変化でサビや腐食があると何かのきっかけで簡単に損傷することがあります。

今回紹介する故障例は強度不足の不良ニップルが原因でホイールが崩壊したものです。ニップルは鍛造品で一体品ですが当該品はツーピース構造あるいは追加工で正常品と同じ形状、寸法に合わせたものでメッキもキレイで正規品と見分けが付きません。もしニップルが抜けたことがあり画像のように破断部分のメッキがない場合は模造品ですので安全のためニップル全数を交換するようお勧めします。



ニップルが抜けている



破断面側にメッキがない

CRIMECA

他の例



後輪が崩壊



同じ構造であることがわかる



スポーク 40 本の内、抜けなかったのは 5 本のみ

どこで製造していたか、どこの業者が扱っていたかなどはわかりませんでした。
製造コストで考えれば模造品のほうが手間もかかり高いものになっているはずですが
適切な生産設備がないのに見た目が同じならと受けた仕事なのでしょう。

CRIMECA